



## 迷い子シロハラクイナ

シロハラクイナはやや中型のクイナ類で、同一種は中国南部から熱帯アジアにかけて広く分布しており、日本では亜種 *Amaurornis phoenicurus phoenicurus* が奄美諸島以南で留鳥として繁殖しています。また九州以北でも迷鳥として渡来したり、一部では繁殖した事例があります(日本鳥学会, 2012)。

四国では、1983年5月21日に高知県幡多郡十和村小野地区で1羽が観察されています(澤田, 1983)。この個体は5月3~4日頃から声は聞かれていたとのことで、渡来は5月上旬のようです。

また愛媛県では、1990年10月7日に西条市難波で観察されています(愛媛新聞社, 1992)。

香川県では2回記録があり、1975年(月は不明)に三豊郡財田町財田川(岡内, 1980)で、また1986年5月には高瀬町で保護されています(四国新聞社, 1996)。



▲シロハラクイナ PHOTO◎古市幸士

## 北上しつつあるシロハラクイナ

南西諸島で繁殖するシロハラクイナですが、渡来記録したいは日本全国にあり、どこで出現しても不思議ではありません。今回は、北海道羽幌町で2003年5月、2007年5月、2009年5月と繰り返し観察された事例が報告されました(伊藤ほか, 2013)。羽幌町は北海道の北東部、天売島に面するところですので、もうほとんど日本の北限です。

この記録で興味深いのは、①渡来時期に台風や低気圧などはなかったこと、②繰り返し渡来していること、③渡来時期が5月という繁殖期であること、を指摘していることです。また本報告では、本種が日本各地で迷鳥として観察されるのは5月が多いことから、5月の季節風によって漂行しているのではないかとの指摘も紹介しています。

考えてみると、本種は、本来の繁殖地である南西諸島ではヨシ原や湿地・水田のほか、草原のようなやや乾いた場所でも見かけました。また路上での交通事故死が他のクイナ類よりも多く、開けた場所に出ることを恐れないように感じられます。そう考えると、日本各地に繁殖可能な場所はあるようです。温暖化による気温上昇も考え合わせると、シロハラクイナの繁殖可能地域の北限は、すでに南西諸島を超えてかなり北上している考えられます。

これらから、シロハラクイナの渡来は単なる1羽の事故ではなく、シロハラクイナという種全体が北上を試しているように感じられます。どれくらいの期間が必要なのか、実際に生息域・繁殖域が拡大するのかわかりませんが、少なくとも今後、さらに観察事例は増えると思われるます。

## 特に5月に注意!!

では、何月頃に注意すればよいのでしょうか。四国の過去記録をみても、4件のうち2件は5月でした。ですからやはり、「5月に渡来する可能性が高い」と考えてよいと思います。ですから5月頃、休耕田やヨシ原などで、黒っぽいクイナ類をみかけた時は、ちょっと注意するほうが良いでしょう。

本種は、おそらく我々の世代か次の世代までの間に、生息域を変化させる可能性が高いと考えられます。きちんと記録を残していくことが非常に重要ですので、もし発見された場合は、ぜひ本会にご報告ください。

- ・日本鳥学会,2012.日本鳥類目録改訂第7版
- ・愛媛新聞社,1992.愛媛の野鳥観察ハンドブック はばたき
- ・澤田佳長,1983.高知県におけるシロハラクイナの初記録,Strix 2(日本野鳥の会)
- ・香川県環境保健部自然保護課,1980.3.香川県鳥獣目録 昭和55年3月
- ・四国新聞社,1996.香川の野鳥ウォッチングガイド
- ・伊藤元裕・石郷岡卓哉・石川隆史,2013.北海道羽幌町におけるシロハラクイナ *Amauornis phoenicurus* の観察記録,Strix 29(日本野鳥の会)